

部長会議

日時：令和4年10月28日(金)

午前9時～

場所：市役所4階 庁議室

1 市長の話

<2期目を迎えて>

今回の選挙は4年間の私自身に対する評価であるとともに、一緒に仕事をしてきた皆さんに対する評価であり、これまで進めてきた改革をさらに頑張ってもらいたいというメッセージでもあると思っている。今まで通りのスピード感では市民からの期待に応えることはできない。更にアクセルを踏んで、改革を進めていく。

<職員に求めること>

1. 職員一人ひとりに幸せになってほしい。市民に貢献していくことは職員一人一人の幸せにつながる。管理職のメンバーには、職員が本当に幸せなのか、市民の幸せに貢献しているのかにこだわったマネジメントを行ってほしい。
2. 誠実であってほしい。邪念が入ると間違った判断をしてしまう。誠実に向き合い、本当に正しいこと、市民に誠実であることにこだわった仕事、これを譲れない柱としてほしい。

<こだわっていくこと>

1. プロセスにこだわる。意見の違いは乗り越えられる。しかしプロセスを疑われたら信頼を得られない。我々が行っていることが本当に正しかったかどうかは10年後、20年後でなければわからない。仮に間違った判断であったとしても、民主主義のプロセスにこだわったものであったということにしたい。
2. 実行にこだわる。今回掲げた50項目のマニフェストは、市民との契約である。他の業務もそれぞれの事業、計画も含め、やると言ったからにはしっかり実行するという事にこだわっていく。ただし、その時々でできなくなることを否定するのではない。そのときは、やらないという意思決定をしてきちんと市民に説明していく。
3. 成果にこだわる。1期目は取り組んだことそのものが評価の対象であった。2期目は取り組んだ成果が評価の対象となると考えている。本当に市民が幸せになったのかという成果にこだわっていく。

<人事異動の発令について>

マニフェストで掲げた政策をよりスピードアップして進めていくために人事発令を行う。北部のまちづくり、70周年記念事業についてはプロジェクトチームを組織して進めていく。

<変える組織風土の醸成について>

1期目は改革の初期であったため、トップダウンで進めなければならないこともあった。これは意識的にやってきた部分もある。ただ、この方法では長続きせず、組織の改革は市長、幹部、管理職がやってくれるものだということになってしまう。切り替える時期だと思う。できる限り現場での改善を進めたい。職員が普段の業務でおかしいと思うことさえ変えられなければ、市を変えられるわけがなく、今後は現場から変える組織をめざしていきたい。

2 通知及びお知らせ

(1) 国土交通大臣賞の受賞について（都市政策部） 【資料1】

空き家調査アプリ「空き家しらべーたー」を開発。昨年度の事業として空き家の先進的な調査方法の整備、流通を促す取り組みとして第34回住生活月間に国土交通大臣賞を受賞。このアプリを活用し、空き家調査の時間短縮、紙の削減が可能になった。

【市長】

ここで発表してもらったのは、多くの職員が関わってきたという経緯があるから。ひとつの部に留めるのではなく、全庁として受けたいと思い、部長会議で発表してもらった。

(2) 人事発令について（総務部） 【資料無し】

部長会議後に、人事発令と市長メッセージをガルーンに掲載する。事務引継の取扱いは個別に総務課より連絡を行う。

【市長】

人事発令の趣旨については、認知症対策のアクションプラン、少人数事業の担当については早急に取り組むべく強化することである。また、任期付職員として弁護士を総務課へ配置する。これまでの人事異動はほぼ4月のみであったが、春先に業務が重なる職場への影響が大きいなど課題を感じていた。来年度4月の人事異動は、年度途中で柔軟な人事異動があることを前提としたものとする。一度に異動させることによる混乱、非効率を軽減したい。

(3) その他

・臨時市議会について（総務部）

11月10日、11日に行う。11日は特別職及び総合政策部長、総務部長のみ出席。

*** 次回部長会議は11月15日（火）午前9時からの予定**